

伊丹市文化財ボランティアの会

火曜会通信

第97号

発行日：令和5年5月1日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧1-1-1

伊丹市まち資源室文化振興課内

市民ガイド(令和4年度 第4回ガイドブックを片手に伊丹を歩こう)

『空港周辺の弥生遺跡ロマン散策』

前日の雨も上がり、爽やかな散策日和となった2月25日、令和4年度第4回目の市民ガイド『空港周辺の弥生遺跡ロマン散策』を開催。伊丹スカイパークから田能遺跡・田能資料館までの見学コースを、会員4名(村、長谷井、久保田、末次)で案内した。

伊丹スカイパーク北エントランスに午前8時50分集合としていたが、午前8時20分頃から参加者が到着し始めた。スカイパーク開門(午前9時予定)まで、バス停で受け付け、少し早めの午前8時45分ごろに開門されてから、ようやく参加者を中へご案内することができた。午前9時少し前に参加者13名が揃った。一時は定員15名に達したものの、前日の雨のせいか、2名からキャンセルの連絡があった。

パークセンターの展示室で、まずは見学コースの概要とスケジュールについてご案内。



パークセンターの展示室

さらに、当日のテーマである「弥生時代」について、水稻栽培による本格的な農耕が開始され、生活が安定するプラス面があった一方で、土地・水・食料をめぐるムラ(集落)同士の戦いが始

まるマイナスの一面があった時代であること、最近の研究で弥生時代の開始年代が500年以上遡っていることなどを紹介した。

肌寒い外へ繰り出した。スカイテラスに展示されている銅鐸、浅鉢、石包丁などのレプリカを見ながら歩く。滑走路から時折飛行機が轟音を残して飛び立って行くのが見えた。



岩屋遺跡の灌漑遺構の前では、蛇行する川の川幅が狭くなったところに堰を造って、流れを用水路に導き、最終的には水田に水を取り入れた様子について触れた。

口酒井遺跡では、関西電力の変電所建設に先立つ発掘調査で、縄文晩期の靱痕付き浅鉢、氷式土器などの出土について、説明した。靱痕付き浅鉢は、弥生時代から始まったとされる稲作がこの集落では縄文晩期から既に行われていたこと、長野県小諸市の氷遺跡で最初に見つかった氷式土器の複雑な文様を持つ氷式土器の破片は、東日本の縄文人と口酒井の人たちとの交流を物語るものである。

【ボランティアガイドの案内】 伊丹市内に散在する文化財(史跡)のガイドを

ご希望される方は伊丹市文化振興課 文化財担当まで 電話(☎:072-784-8090)

または文化財ボランティアの会にメール(ibunbora@yahoo.co.jp)でお申込みください。

ここから 400m離れた田能遺跡まで移動の途中に尼崎・西宮・伊丹三市共同の工業用水園田配水場がある。1965 年(昭和 40)9月、配水場の建設工事中に大量の弥生土器が発見された。この場所に大規模な弥生時代の遺跡があると推定され、同年 10 月から約 1 年間、発掘調査が行われた。

田能遺跡では、発掘調査概要、その結果などを説明の後、史跡公園を案内した。住居跡や溝などのほか、木棺墓、壺棺墓、甕棺墓(かめかんぼ)、土壇墓(どこうぼ)などの墓の跡が花壇として保存されている。碧玉製管玉の首飾りや白銅製の腕輪を身につけて埋葬された人物の墓の出土は、当時まだ不明だった近畿地方における弥生時代の墓の形態や埋葬状況、田能大集落において権力を持った支配者的な人物の



田能遺跡

存在が裏付けられ、身分社会など当時の暮らしや文化を知る手がかりとなった。これらの出土

遺物から、田能遺跡が弥生時代のほぼ全期間に及ぶ大集落跡であることが分かった。

改修間もない、真新しい高床倉庫を見学したところで、午前 11 時となった。田能資料館の見どころを紹介して、館内はバスの時間を見ながら、自由に見学してもらうことにした。参加者が協力的で、設定時間通りに歩くことができ、楽しい史跡めぐりであった。(末次 記)

第28回文化財ボランティア養成講座

毎年1月から開催される「文化財ボランティア養成講座」は 28 回を迎えました。今年の講座は、リニューアルオープンした「市立伊丹ミュージアム」から国指定重要文化財「旧岡田家住宅」等や、市内の自然や忠魂碑について学びました。市内の文化財・歴史遺産に関心を持った受講生が参加され、最終日(3月11日)には、市内史蹟めぐりの文化財ガイドを行いました。

受講生ガイドによる市内史跡巡り(3月11日) 文化財って?『伊丹郷町北部編』に参加して

毎年恒例の養成講座受講生による、卒業実技試験です。今年は 8 名が史蹟めぐりのマイクを持って、有岡城跡→忠魂碑→伊丹郷町と酒造り→法巖寺と大クス→旧岡田家住宅・酒蔵→旧石橋家住宅→有岡城の惣構と砦→猪名野神社→市指定天然記念物ムクロジの解説をしました。

最高気温 20 度になる快晴のもと、史跡巡り参加者の数人も交え、和やかに散策しました。参加者の中には日ごろ買い物などで歩いている場所に、このような文化財が豊富にあることにびっくりされている方もおられました。

受講生たちはレジュメを作り、写真や酒樽を運ぶ馬のイラストを駆使してのガイド。なかなか



猪名野神社

の技量です。法巖寺ではご厚意により、境内に入れていただき、樹齢 580 年の大クスを間近で見ることが出来てパワーをもらいました。文献でしか知らなかった手水鉢も、実物を見る事が出来ました。

猪名野神社のムクロジの説明では、羽子板とムクロジの黒い種子で作った羽根を使って、音色の美しさを再現されていました。

猪名野神社の奥の方に一行が歩を進めると、



ホーホケキョと鶯が一鳴きました。鬼貫の句碑に「鳥は未 口もほどけず 初桜」とありますが、主人公は私だと言わんばかりの鶯です。火曜会通信の少し前の末次氏の原稿に、ガイドをしていると上手な鶯の一鳴きが聞こえた」と記載されているのとデジャブだと思われる読者もいらっしゃるでしょう。さては鶯もガイドの一員ですね。鬼貫の頃より上達して

いるようです。

ガイド歩きを終え、和やかに昼食をとりながらお話をし、養成講座の後は受講者全員が文化財ボランティアの一員として参加されると伺いました。市民ガイドや岡田家当番、分科会活動などで楽しく勉強してまいりましょう。優しい先輩ばかりですよ。

(中村 記)

史跡ガイド班 屋外研修 大坂夏の陣と天王寺七坂を歩く

3月24日(金)、JR 伊丹駅改札口9:00集合、天王寺駅着目安9:54の予定。当日朝、私は自宅の最寄り駅で電車に乗りましたが、なぜか発車することなく、京都線での車両トラブルによる遅延のアナウンスが。結局、天王寺で合流することとなりました。参加された皆様にはご迷惑をおかけし、申し訳ありませんでした。

聖徳太子発願による創建を伝える四天王寺、豊臣方と徳川方が火花を散らした大坂の陣など、上町台地は大阪の歴史を語る上で重要な場所です。研修コースは、四天王寺→茶臼山→一心寺→逢坂→安居神社→清水寺→大江神社→愛染堂勝鬘院。(参加者16名)

お線香の香りが漂う中、仏壇仏具関連の店の多さや総本家釣鐘本舗の釣鐘饅頭に気をとられつつ、和宗総本山四天王寺に到着。末次会長が、その歴史や特徴を解説されました。聖徳太子が四天王寺を建てられるにあたって取られ

たのが、「四箇院の制」。四箇院とは、敬田院、施薬院、療病院、悲田院の4 つのことで、敬田院は仏教をひろめ、施薬院と療病院は薬局・病院、悲田院は社会福祉施設にあたります。この考え方は行基さんの業績にも通じています。また、昔は四天王寺の門前まで海が迫っており、水平線に沈む美しい夕日が眺められたそうで、夕日を拝み、西方浄土に思いをよせる修行である「日想観」の修行の中心地です。

曇天の桜を眺めつつ、茶臼山に向かいます。前方後円墳あるいは、788年に和氣清麻呂



が上町台地を掘削した時の残土を盛った丘といわれますが、大坂冬の陣では徳川方、夏の陣では真田幸村が本陣を構えた場所です。いつもは水辺で見かけるアオサギが、丘の中ほどで私たちを待っていてくれました。

お骨佛、おせがき(お施餓鬼)のお寺として知られる一心寺には、本多出雲守忠朝の墓があり、断酒祈願でも有名です。関ヶ原の合戦などで武功をあげた忠朝が、お酒を飲みすぎて大坂夏の陣で討ち死にし、その際に酒癖を後悔して「死後は酒のために身を誤るものを助けん」と



誓ったそうです。

真田幸村が夏の陣で討ち死にした地と伝わる安居神社から、清水寺へと歩き、四天王寺を守る七宮のひとつである大江神社へ。ここには、「狛虎」が鎮座する毘沙門堂跡があり、阪神タイガースの聖地とも呼ばれています。境内を出ると、『百歳(ももとせ)の階段』があります。こちらの階段は101段あり、人生の区切り100歳よりあともう一步、心も身体も健康でありますようにと願いをこめて名付けられた階段です。「往復したら200年生きられる？」という声も聞かれましたが、誰一人として実行する方はいらっしゃいませんでした。

最後は、映画「愛染かつら」のモデルとなった縁結びの霊木が境内に鎮座する愛染堂勝鬘院です。前身は四天王寺の施薬院として建立され、聖徳太子が勝鬘経というお経を人々に講ぜられたと伝わります。多宝塔は大阪市最古の建物、国の重要文化財で、蛙股には十二支の彫



愛染堂勝鬘院

刻が施されています。自分の干支を探して、多宝塔の周りを歩きました。

寺社仏閣が連なる天王寺、その歴史について知ることができました。ガイドしていただいた皆様ありがとうございました。

天気予報では40%の降水確率でしたが、雨に降られることなく、また、電車の遅延にも関わらず、12時半頃には無事研修を終えることができました。(山田(美) 記)

令和5年度 総会開催

4月11日(火)、スワンホールにおいて、令和5年度総会が開催されました。

令和4年度の活動報告・会計報告に続いて、令和5年度活動計画案・予算案が提案され、討議の結果、原案通り承認されました。

以下、末次会長に当日の様子を日誌風にまとめていただきました。

2023(令和5)年度総会開催日誌

総会はスワンホールで午前9時30分から始まるのだが、少し早めの午前8時20分ごろ家を出て、たんたん小道を歩く。桜の季節が終わり、ツツジが咲き始めている。

午前8時50分にスワンホールが開くと、3階大ホールへ直行。机・椅子を並べるなど会場設営を行った。

午前9時30分に伊丹市の文化財担当中畔主幹臨席のもと、8人の新しい会員を迎えて、会議は始まる。冒頭に会長として挨拶。第35代ケ



ネディ米大統領の就任演説から“Ask not what your country can do for you; ask what you can do for your country”という一節を引用し、これになぞらえて「この会があなたのために何をしてくれるのかを問うのではなく、あなたがこの会のために何ができるのかを問うて欲しい」、そういう意識で積極的かつ自主的に会の活動に参加し、盛り上げて欲しい、と述べた。

中畔主幹ご挨拶の後、総会の議事進行に移る。議案書の順番に粛々と進行した。令和4年度活動報告(末次)、会計報告(角谷)、会計監査報告

(丹野)はいずれも拍手をもって賛同を得た。

ここで、新年度の会員45名のうち当日の出席者が39名で、総会が成立することが宣せられた。役員・幹事の改選時期ではないが、幹事会メンバーが2名減少(副会長、顧問が3月末に退会)し、新年度は11名で幹事会を運営していくことを審議し、了承された。

議案については第1号令和5年度活動計画案(末次)、第2号会計予算案(角谷)が提示され、会員の承認を得て、それぞれ活動計画、予算として成立した。

10分ほど休憩の後、新入会員8名(岩崎、久保田、神立、武田、長谷井、松永、山本、吉本)が、順番に自己紹介を行った。

その後4月度定例会を開催。各班の活動報告、今後の予定が発表され、分科会スケジュールを確認、住所録作成などにつき説明が行わ

れた。

総会・定例会終了後、懇親昼食会が開かれた。弁当とお茶(人によってはおちゃけも)でお腹を満たした後、エンターテインメントタイムとなる。落語の大家(足立)と詩吟の達人(本郷)が舞台に立ち、それぞれ小咄3題と「古城」入り歌謡吟詠の名人芸を披露し、拍手喝采を浴びた。

最後に学習支援班メンバー(名声優たち)がデジタル紙芝居「ワシントンの桜物語」「三軒寺の砂かけだぬき」の公演を行い、懇親会は参加者の笑顔に包まれて、大団円を迎えたのだった。おしまい。(末次 記)



第28期 新人会員紹介

新しく会員になられた方々をご紹介します。(敬称略)

岩崎 隆至 (いわさき たかし)



「こんな本があるんや」私が、JR駅の観光物産ギャラリーで、ボランティアの会「文化財を訪ねて」を発見したのは今年の5月です。4月からフルタイムの仕事卒業し街歩きでもしようと思っていた私にはぴったりの本でした。この縁で1月からの養成講座を発見し、早速申し込みました。

私自身は、大阪で生まれ育ちましたが、結婚以来、途中単身赴任期間も含め30年以上伊丹市民です。が、今の町中にも歴史遺産が隠されていることに気づいていませんでした。(私の住居が惣構の境の真上にあるとは。。。)これまで、理系、エンジニアとして働いてきたので、文化財などまるで素人ですが、楽しくいろいろ参加したいと思っていますので、よろしくお願いします。

私自身は、大阪で生まれ育ちましたが、結婚以来、途中単身赴任期間も含め30年以上伊丹市民です。が、今の町中にも歴史遺産が隠されていることに気づいていませんでした。(私の住居が惣構の境の真上にあるとは。。。)これまで、理系、エンジニアとして働いてきたので、文化財などまるで素人ですが、楽しくいろいろ参加したいと思っていますので、よろしくお願いします。

神立 敏江 (じんたて としえ)



春のチューリップフェアと散居村の富山県砺波市で生まれ育ちました。冬は雪かきから朝は始まります。回覧板は100メートル以上離れたお隣さんへ。通学は誰かの足跡をたどりながら歩くこともしばしば、冬はしもやけもお友達でした。今では懐かしい思い出です。

結婚して伊丹→熊本→伊丹と移り住み、こちらの生活も20数年と長くなりました。

友達に誘われて受けた講習でしたが、史跡、文化財もっと学んでみたいと思いました。歴史を感じる酒蔵通りは、私のいちばん好きな街並みです。まだまだ知らない魅力のつまった伊丹の街を歩きながら、次の世代へ繋ぐお手伝いが少しでもできたらと思っています。

どうぞ皆様やわやわ(富山弁でほっこり)よろしくお願ひします。

久保田 美冬 (くぼた みふゆ)



『新・伊丹史話』の行基さんの
出自の項にこんな記述がありま
す。

「当時の日本人の間に『まれび
と信仰』、つまり、季節ごとに集落
の外から訪れる神や人をその集

落に幸福をもたらすものとして歓迎するといった
信仰や風習があり、そのため外来の人々との間
に自由な交流があったといわれています」

これは良い話だと感心しました。今後いろい
ろと勉強し、研鑽を積み重ねていくうちにいつか
ガイドが務まるようになりましたら、この『まれびと
信仰』に添う想いで伊丹を訪れてくださる方々に
故郷の魅力をご紹介していきたいと考えます。
私自身、市民ガイドツアーに参加した際、会員
のおひとりから声をかけていただいた事が入会
のきっかけとなりました。有難いご縁を嬉しく思
い、感謝しております。

松永 三知男 (まつなが みちお)



私の出身は静岡県静岡市蒲
原です。東海道 53 次の宿場町
であり、自然の豊かな、富士山
が綺麗に見えて、桜エビがとれ
る場所です。

東京から熊本まで全国 15 か
所に居住し、各地域と周辺の風土、歴史を学び
ました。特に熊本城、福岡城跡、広島城、福井
城跡、駿府城跡、吉野ヶ里遺跡、太宰府天満宮、
耶馬溪等城郭、名所、旧跡を訪ねたことが楽し
い思い出です。11 年前広島から伊丹に転居し
てきました。伊丹市・兵庫県・関西の自然・文化・
歴史を学んでおります。

今回入会したきっかけはラスタ歴史サロン「伊
丹の歴史と文化財」講座を受講し、また、市民と
して市民ガイドに参加した事です。もっと伊丹市
文化財の勉強や基本的なガイド手法を学びたく、
伊丹市文化財ボランティア養成講座を受講させ

ていただき、入会しました。

今後は伊丹市の自然・文化・歴史についてい
ろいろな視点より勉強し、健康に留意して最善
を尽くして活動していきたいと考えておりますの
で、宜しく願いいたします。

山本 真美 (やまもと まみ)

退職後も多忙だった日々はコロナ禍で一転、
様々な活動が中止になりました。家庭事情もあり
仕事も断り自粛生活を余儀なくされました。そん
な時、いたみ広報で、実に多くの情報を得られ
る事を知り、まず市民後見人の養成講座を受け
資格を取りました。これに味をしめ、文化財の養
成講座の受講も決めました。京都で少し文化財
等に関わる活動をしていたので、興味深く参加
しました。伊丹市の天然記念物の中に、ムクロジ
やクスノキも含まれており、大好きな植物も勉強
できるとあって胸が高鳴りました。

最後の講座では、受講生にもかかわらず伊丹
郷町を案内する機会を与えていただき大変感謝
しています。「法巖寺と大クス」を担当、市民の
方と大クスの魅力を共有出来、話題も広がり交
流の場が持てた事に喜びを感じています。

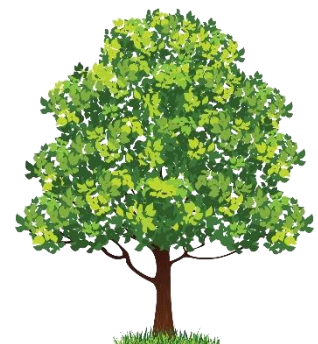
幅広い年代の方と交流しながら、楽しく積極
的に元気いっぱい活動できたらと思います。山と
植物が大好きなシニアです。皆様どうぞご指導
よろしくお願い致します。

武田 真理 (たけだ まり)

長谷井 めぐみ (はせい めぐみ)

吉本 智恵子 (よしもと ちえこ)

以上の 8 名が第 28 期の新しい会員です。
よろしくお願い致します。



[町の小さな文化財 第26回]

旧大阪陸軍獣医資材支廠^{ししょう ぶんしょう}長尾分廠

正門の門柱 (北野1丁目)

同分廠は昭和 15 年(1940)に獣医資材支廠大阪出張所として分離発足、築港で操業を開始した。獣医資材とは軍馬用の医薬品、蹄鉄、蹄釘等の備品のことである。

しかし同地が手狭になったので、川辺郡長尾村への移転が計画され、昭和 17 年(1942)に約 3 万坪(500m×200m:10 万m²)の用地買収が行われた。長尾村荒牧、鴻池、荻野の村民に対して印鑑持参で国民学校に集合せよとの達しがあり、概要説明のあと、該当する地権者は直ちに用地売却の同意が求められた。翌 18 年には建物が出来始め順次移転を開始、19 年には長尾分廠の開庁式が行われた。

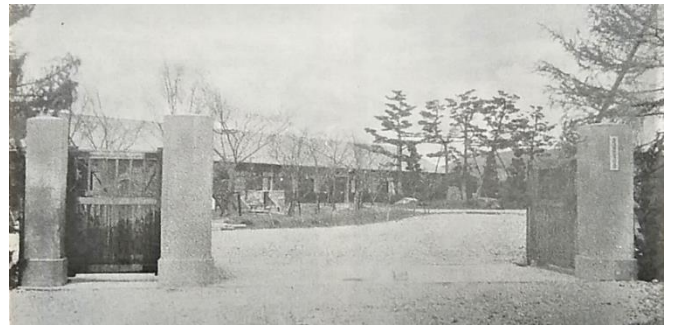
また同年には国鉄中山駅からの引込み線工事が始まり、翌 20 年初頭には獣医資材支廠と兵器廠(宝塚市野里)への引込み線が完成した。

終戦後、同分廠は残務整理のあと 21 年 2 月に閉鎖され、同年 5 月より外地からの引揚者用の県営応急援護施設の長尾寮となった。その後 21 年には生活保護施設として一般生活困窮者も対象とするようになった。27 年には管理を長尾村に委譲するが、30 年長尾村の合併消滅により伊丹市が管理引き継ぐことになった。寮内には約 300 世帯が生活して、浴場、講堂、診療所、保育園が設けられ、また教室が不足する学校、幼稚園の仮施設としても用いられた。

やがて高度成長期を迎え、戦後に果たした役割も終了して昭和 39 年(1964)より土地・施設とも民間への払下げが始まった。現在はかつての面影は全くみられず、残っているのは正面入り口の門柱のみである。

(地域研究いたみ 25 号 参考)

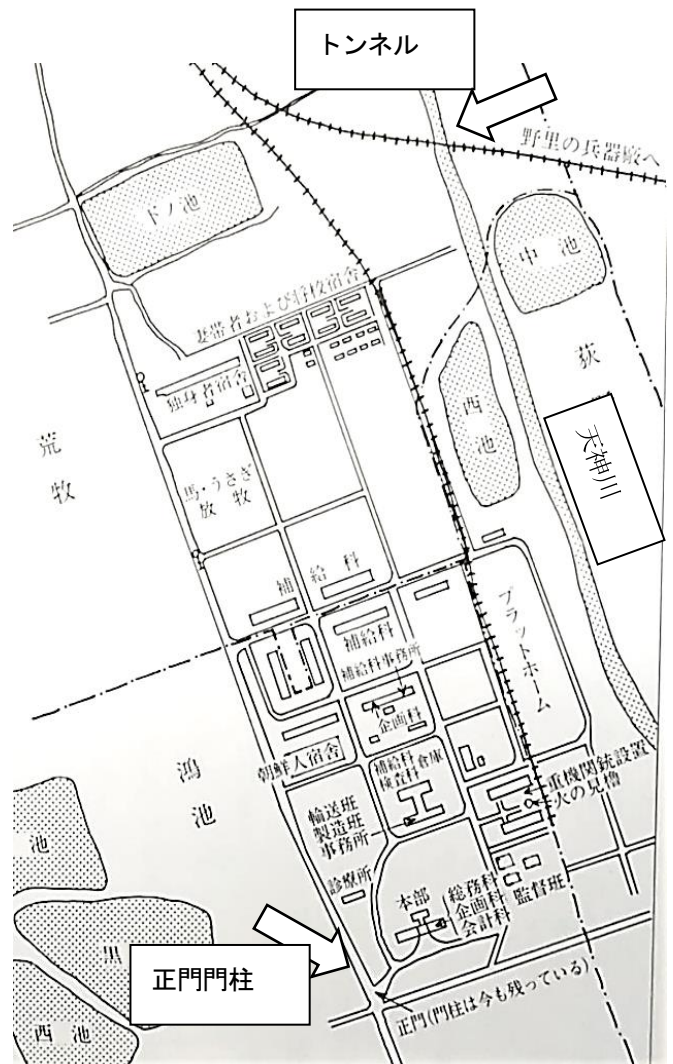
(松田 記)



旧大阪陸軍獣医資材支廠長尾分廠正門



現在の正門跡 門柱は当時のままで保存



長尾分廠平面図

研修サロン班活動報告

屋外研修の記録

2月17日(金)「池尻」 参加8名

一年で最も寒い時期の屋外研修、朝方の冷込みも日中の日射しで気温は上昇、まずまずの活動日和でした。

池尻の村は「七墓八宮五氏宮」と呼ばれるように墓が7ヶ所、神社が8ヶ所と5ヶ所の氏宮があります。池尻では同姓の一族ごとに墓地を構える習慣があり、これに共同の焼き墓を加えると墓地は合計7ヶ所になります。他の村では見られないこのような習慣がなぜあるのか、興味のあるところです。大雄山 最禅寺は曹洞宗の寺院です。本堂で講話を拝聴したあと、坐禅を体験させて頂きました。5分間の短い時間だったようですが、かなり長い時間のように感じました。



本堂前で記念撮影

3月16日(木)「天六～中津」 参加5名

今回の天六～中津の屋外研修は、伊丹市内および周辺地域の屋外研修と違って都会のビル街を歩きます。まずは天六駅にある今昔館を見学しました。今昔館の見ものは江戸末期の店舗、長屋など当時の町並み生活ぶりを復元したジオラマです。そこまでやるかと思うほど忠実に再現しており、200年前にタイムスリップができるので一見の価値があります。ぜひ見学に訪れてみて下さい。

・昭和8年に起きた「ゴースト事件」と言っても90年前の出来事で、ご存知ない方が多いでしょうが、当時の一大事件(?)その舞台となった交番が今もあります。ただしビル街となった現在、当時の面影は全くありません。

・マンション、商業施設ビルが立ち並ぶ一角に、ポツンと戦災その後の都市化の波をくぐり抜けてきた南濱墓地があります。墓地内には享保9年(1724)の大火「妙知焼け」の焼死水死精霊を祀る五十回忌追善塔が建てられています。

・最後に佐伯祐三(1898～1928)の生誕地、中津の光徳寺(浄土真宗本願寺派)を訪れました。佐伯祐三は寺の次男に生まれ、パリの下町風景を描いた傑作を残し、30歳で夭折しました。4月から大阪中之島美術館で特別展が開催されます。同寺の建物は戦災で焼失しましたが、大正年間に始めたセツルメント(隣保事業)は現在も継承しています。



妙知焼け50回忌追善塔



佐伯祐三生誕地の碑

(松田 記)

定例会開催日(3月14日)の午後、数名の会員で旧岡田家二階に保管していた物品の断捨離作業を行いました。施設管理責任者から「将来にわたって使う予定のないモノは廃棄するように」と、度々勧告を受けていたのです。



引き続き保管した物は僅かで、多くは廃棄せざるを得ませんでした。先輩方は大変だった、と思わせられた物も多々ありました。例えば、

畳大に近いサイズのパネルに、ガイドコースの地図や写真を貼った説明資料。今日ならプロジェクターかパンフレットを用い持ち運びしやすくなりますが、大きいので見やすいという長所があるとはいえ、製作はさぞかしお手間だったろうと拝察しました。

反面、何でこんな物を長い期間取っておいたのか、と疑問を感じた物も多々残っており、ガイドに役立つかも知れない資料(450ビニール袋2つつ分)、旧どんぐり座関連資料等々、および制服制帽等今後使用する物だけを残して、大方を処分しました。

防塵用にマスクをしながら、処分は予想以上に大変でした。燃えるゴミと燃えないゴミはきちんと分類し、粗大ゴミ扱いにせぬよう気を遣いました。書類等はビニール袋が破れない程度に

押し込みました。前述のパネルは木製品だと思って電動鋸を用意しましたが、実際には枠以外は発泡スチロールにコルクボードを貼り付けた物でしたので、手鋸とカッターナイフで分解できましたとは言え、全体で数十袋と量が嵩みました。

市クリーンセンターに電話をかけ、翌日搬入OKの答えを得、ラッキーだと思われたのは、ほんのつかの間。団体名で廃棄を申し込んだため、「家庭ゴミでないなら、会の存在証明を提出せよ」「提出しても木と紙だけは引き取るが残りは引き取らない」との事で頭を抱えました。更に市立ミュージアムからは、ゴミの預かりは一晩だけ可と言われ、困り果てました。

そんな状況下で末次会長が電話であちこちと交渉に次ぐ交渉の結果、最終的に木や紙は市の許可を得ている廃棄業者に有料で翌日引き取ってもらい、発泡スチロール等は会員が分担して自宅に持ち帰りました。自転車に積んだ方々は横風でふらついたのではないのでしょうか。



翌日、民間の廃棄業者が岡田家まで来て、ゴミを持ち去ってくれました。長年の懸案事項を処理し、ほっとひと息ついた瞬間でした。

教訓「溜めるは易く、減らすは難し」
参加者:中村、丹野、角谷、長谷井、永野、末次、松田、山岸、植田、玉浦(敬称略)

(玉浦 記)

学習支援班 いたみ民話会公演レポート(わかばこども園)

2月6日にわかばこども園に紙芝居2本、『野間の一本松のいたずら狐』と『三軒寺の砂かけ狸』を披露しに行きました。感染が落ち着いてきたとはいえ、コロナ禍なので少人数の5人で赴きました。

新しい様式でリニューアルされたデジタル版ではなく、先方の希望でアナログ版の上演となり

ました。5才くらいの子供たち(90名)や若い保育士の方々にとっては、ややセピア色に染まった古本屋の匂いのする紙芝居が木製の額縁から引き抜かれる様式は、昭和・平成の匂いがして喜ばれたようです。



物語の舞台となった野間周辺をイラストマップで見せながら、きつね塚とわかばこども園境界を説明しました。子供たちの住んでいる学区なので、物語の登場人物に親近感を持たせたようです。めくりやすい工夫をした紙芝居試作品も、今後のアナログ版での公演に役に立つのではないのでしょうか。



子どもたちの眼差しはとてもピュアで、食い入るように物語に没頭していました。日頃の社寺仏閣のガイドでは同年代やご高齢のお客様が多いですが、幼稚園年長さんや保育士の方々との交流は新鮮でした。

帰り際に手を振りハイタッチしてくれた子供の笑顔を思い出すと、私たち自身も猫背の背筋がシャキッと伸びる気がしました。

(中村 記)

活動記録 (2月~4月)

【定例会】・2/14 (火) ・3/14 (火) ・4/11 (火) 総会

【史跡ガイド】

・2/25 (土) 令和4年度第4回市民ガイド・3/26 (日) 旧岡田家・石橋家 (観光協会 西宮市)・4/23 (日) Aコース (退職者教職員の会 高槻市)

【研修サロン班 活動】

(勉強会)2/2(木)「池尻地区」、3/2(木)「今昔館から能勢街道起点の中津へ」
4/6(木)「豊中北西部 阪急蛍池～石橋」

(屋外研修)8pに詳細を記載

【学習支援班】・紙芝居公演 2/6 (月) わかばこども園

【岡田家当番】令和5年4月15日から開始

今後の予定 (5月~7月)

【定例会】・5/9 (火) ・6/13 (火) ・7/11 (火)

【史跡ガイド】・6/17 (土) 令和5年度第1回市民ガイド『伊丹廃寺跡と伊丹緑道』

・6/21 (水) Aコース (歴史探訪OB会 神戸市)・6/21 (土) 旧岡田家・石橋家/ (コミュニティカレッジ 川西市)・7/7 (金) Aコース (コミュニティカレッジ 豊中市)

【岡田家当番】令和5年6月30日終了 (令和5年9月から再開)

私たちと一緒に 文化財のガイドをしてみませんか

伊丹市内には有岡城跡や毘陽寺など、多くの文化財が残されています。文化財ボランティアの会は、伊丹市を訪れた方々に郷土の歴史や文化の魅力を伝える活動をしています。また、伊丹の民話を紙芝居で紹介する学習支援班 (いたみ民話会)、歴史会、古文書会やパソコンを学ぶ分科会など、様々な分野で楽しみながら知識を広げています。ぜひ、私たちの仲間になって、活躍の場を見つけてください。

なお、会員には準会員と正会員があり、毎年1月~3月に開催される全8回の養成講座を受講・修了すれば、正会員となります。

■養成講座についてのお問い合わせは

伊丹市都市活力部まち資源室文化振興課

文化財担当 (☎: 072-784-8090) までご連絡ください。

